



眞実を見抜く目

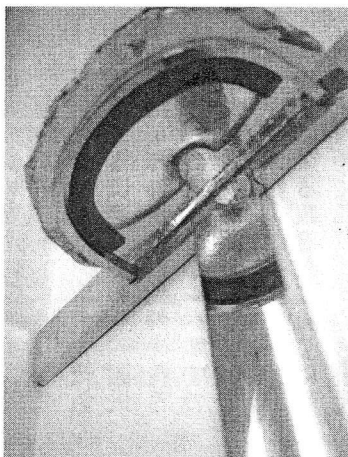
わたしが住んでいる町は北部九州の行橋市ゆくはしという所。人口七万人ほどの小さな町。この町出身で、二十五年程前からスペインのバルセロナで活躍している九十九くくも伸一さんという画家がいる。二人に共通の友人の紹介で、二〇〇三年の十二月に初めて会った。ちょうど二〇〇五年の小教区創立五十周年の準備を始めた頃で、聖堂の内部の改装を手伝ってもらったことになった。

「天使の時空」と題したステンドグラスをはじめ、「ロンダニーニのピエタ」(悲しみの聖母)、「聖霊降臨」の絵、聖堂側壁の漆喰しっくいに描かれた「自然界の恵み」と「祈り」、後壁には「トスカーナのアリアーキリストの聖体」

の大壁画が描かれた。聖堂後部の二つの部屋には「聖杯とパン」「エリカー命の奇跡」、「復活の天使」の絵が掛けられている。聖堂の内扉も新しいデザインで作成され、その両扉には天使のステンドグラスがはめられている。この三年半の間に聖堂は少しずつ完成されていった。今年の昇天祭には、眞鍮しんちゅうとステンドグラスで作られた新たな聖水盤が聖堂入口に設置された(写真下)聖水盤を下から見ると十字架のイエスの体のように見える。すべてが無償の奉仕の賜物である。

韓国でのイベントに参加するために一時帰国された九十九さんは、幼稚園のホールの広い後

壁に掛けるために「聖母子」の絵を描いてくださった(写真)次ページ。「聖母子」の絵の後は「聖霊降臨」と「天使の時空」



のステンドグラスの一部が見える。五月三十一日の聖母訪問の記念日の前日に絵は完成した。ホールに飾る前にしばらく聖堂に置き、訪れる人に見ていただ



山元 眞 神父
やまもと まこと

いた。幼稚園の子どもたちも学年ごとに聖堂を訪れて「聖母子」の絵を見た。年長組の一人の男の子が、聖堂の左壁に掛けられている大きなピエタの絵を見て「あれは何?」と尋ねた。ピエタの絵はミケランジェロの「ロンダニーニのピエタ」の具象画。白と黒の油絵具だけで描かれたもの(写真は前号の本コラムに掲載)。以前、この絵を見た三歳の女の子が「泣いてる……」と言った絵。わたしは十字架から降ろされたイエスを抱く聖母マリアの話をした。すると別の子が「どうしてイエスさまは殺されたの?」と聞いた。わたしはイエスがなぜ殺されたのかをか

いつまんで話した。すると「聖母子」の絵をじっと見ていた女の子が、ピエタの色と「聖母子」のマリアの目が同じ色であることに気づいた。聖母マリアの目はまさに生まれたばかりの幼子に十字架の死を見つめる慈しみの目であった。

「この人はだれ？」というわたしの問いに一人の子が「マリアさま！」と即答した。「どうしてマリアさまなの？」問い返すとその子は絵を指差しながら「だってマリアさまがいないと宇宙がこわれるもん！」と答えた。

子どもたちと一緒に聖堂を出るとき、ピエタの絵について尋ねた男の子がつぶやいた。「○○ちゃんのお父さんは、せんそうがはじまったら、せんそうするんだって……」自衛隊の基地が近くにあるので、その子の友だちの親は自衛官なのだろう。「ね

え、せんそうになったら、ぼくたち、どこにかくれたらいいん？」寂しそうに言った。わたしは酷なことだと思いがらも「今度戦争になったら、かくれるところなんかないんだよ」と言った。「だから、みんな仲良くし



て戦争にならないようにしなくちゃね」と付け加えた。聖堂は二階にあるのでスロープを降りるのだが、わたしと手をつないで黙って歩いていたその子は、スロープを降りきったところで飛び跳ねながら言った。「ぼく、生まれてきてよかったあー！

ねえねえ……いっしょにおひるたべよう！」

短い時間ではあったが、子どもたちと一緒に聖堂の絵を見ながら、生と死、宇宙、神、十字架、殺人、つながり……などについて考えることができた。

「聖母子」の絵は聖堂内で完成されたが、キャンパスの下塗りとその上のデッサンは、九十九さんの自宅でき上がった。下塗りを終わってキャンパスをじっと見ていたとき、下絵からデッサンが浮き出てきたという。事前に九十九さんが決めていたデッサンと似通ったところはあったが、彼は自分のデッサンをあきらめ、下絵から出てきた線を描きとめた。その上にいろいろな色が何度も何度も塗られた。最後に聖母の目にピエタの灰色、バイオレットグレーが塗られ、「母」は「聖母」になった。

「聖母子」は今、幼稚園のホールで子どもたちをあたたく見守っている。

(聖堂の様子は行橋教会のホームページで見ることが出来ます)
www.yukuhashi.catholic.ne.jp



株式会社吉本洋紙店

本店 〒104-0041 東京都中央区新富2-7-4
厚木支店 〒243-0807 神奈川県厚木市金田1017

☎03(3551)4141(代)/2143 FAX03(3551)3939
☎046(223)6931 FAX046(223)6930